

「ラストエンペラー」残像

溝 脇 昭 人



映画「ラストエンペラー」は中国最後の皇帝溥儀の生涯を描くもの。溥儀が皇帝を退いた翌年(1925年)、故宮博物院が生まれた。長かった中国王朝の残像をとどめる文物が保存されたのだったが、それは中国民衆が初めて民族の歴史の凝集である文物を自分たちのものにした記念すべき年だった。

故宮博物院の文物はその後、中国の内乱、対日抗戦の嵐の中で戦乱を逃れ南京、重慶、昆明、また南京、そして台湾へと移された。その間、なにか一つ破損、失うことがなかったというのは世界の博物館史上の奇蹟といわれる。七十万点に及ぶきらめくような文物は中国大陸そのものの足跡で、海を隔てた台湾に残ったのも歴史のなせるわざだ。その文物は中国を母とする日本の基層をも照らし出すものでもある。

この一月、日本の地方新聞訪台団団長として台湾を訪れ、故宮博物院も見学する機会があった。その規模の大きさ、内容の充実ぶりもさることながら、展示にとどまらず、民衆の中へ入り込んで「博物」への目を開こうとする館の運営の一端を知った。管理が厳しいのが博物館類の顔の一つだが、四階に茶を飲む部屋が用意してあるのにほっとした。中国、日本、英語、独、仏語、スペイン、アラビア、韓国語が話せるそれぞれのガイドが情熱を込めて説明する。効果的な照明、小グループ別の説明、マルチメディア映写室など、子供たちの目も光る。ユーモアを交える説明だ。内外への巡回展示、常設・特設展示、出版、講習会などなど“現物”に接することの感動を、という本来の活動のほか生涯教育の一環に、という方針が見られた。女性が

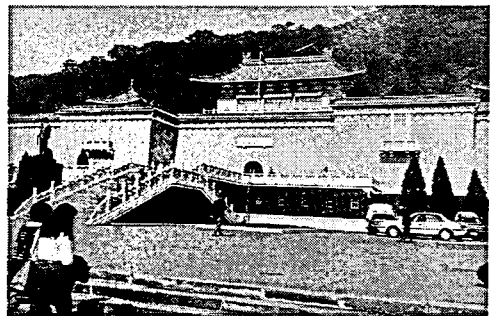
イドは「日本のレプリカ(複製)技術導入など日本との交流が増えてきた」と言っていた。

ところで、台湾は今、日本以上に“映像文化”の国。ビデオ機器生産は世界一。カラオケの普及もすごい。映画「悲情都市」は「キネマ旬報」選定外国映画一位(昨年)だった。しかし、ナマの現物に接することで得る重さに対し、映像で満足する風潮の軽さ。このままでは、と台湾政府は最近“現物”教育の回復を図っている。博物館への割引き、青少年村、民族村などの整備と学校教育への導入などだ。

名勝・日月潭の古い民家群を復元した旅行村ではその民家に少年たちが体験宿泊していた。台湾では、農家でさえレンガ屋根づくりは消えつつある。アジア唯一の野外博物館・九族文化村にも学生・社会人グループが見学・体験に来ていた。

「博物館を生涯教育の場に」の実地場面である。ふと思い出した。岐阜県博物館が今年度から生徒の引率見学は入場無料にした、と。

“映像”の魅力より、“現物”の迫力がより感動を呼ぶことを再認識した台湾の旅だった。



国立故宮博物院で・館内は撮影禁止だ
= 台湾・台北市 =
(岐阜新聞社論説委員)

美並ふるさと館

〈円空ふるさと館・生活資料館〉

〒501-41 郡上郡美並村粥川
TEL 057579-3440

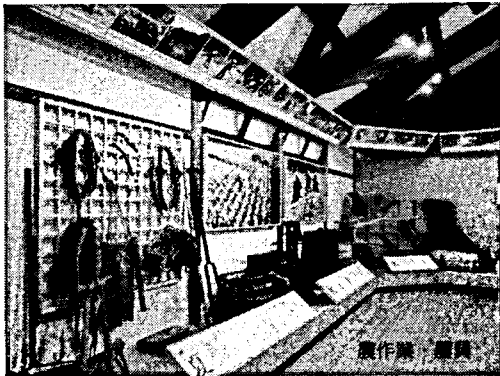


美並ふるさと館 全景

昭和63年に円空仏の展示を中心とした「円空ふるさと館」がオープンしましたが、本年4月新たに「美並村生活資料館」を併設してオープンし、両館合せた名称を「美並ふるさと館」としました。

当館は、美並村の中心地^{かりやす}刈安より^{かゆかわ}粥川谷に沿って4Km程山の中に入った、うなぎ伝説で知られる粥川地区内の^{ほしのみや}金幣社・星宮神社の境内、非常に神秘的な場所にあります。

近くには「ふくべの里バンガロー村」^{やとろ}「矢納



館内展示風景

^{よち}ヶ淵」^{ふくべがたけ}「瓢ヶ岳登山コース」等々、アウトドアライフを満喫するにはうって付けの所があります。

館内1階フロアを右手に回ると「生活資料館」の入口です。入ると、いきなり実物大の筏が目に飛び込んできます。この館では美並村の昔の山と川に生きた人々の生活を再現しており、筏の外にも、民家の復原や農作業道具などを分かりやすくテーマ別に展示してあります。2階には国鉄コーナーや特別展示コーナーが設けてあり、入った人の目を楽しませてくれることはまちがいなし。この館の最大の特徴はすべての復原、展示作業が地元の方々の手によって行われたということ。どうやって創ったのか、どう苦労されたかを考えながらごゆっくりご覧ください。

「生活資料館」を出て正面の階段を登ると、そこはもう円空の世界、「円空ふるさと館」ではジオラマによる円空の生涯の説明や円空仏の展示、厳粛な雰囲気の中、清らかな気持ちでご参拝ください。緩やかに流れる時間の中できっと円空の魅力に取りつかれるでしょう。

「ふるさと館」を出たら参道横にお食事処^{どころ}「ふくべ苑」があります。乾いたのどを潤し、円空そばでも食べながら旅の想いに浸ってみてはどうですか。

入館料 400円、月曜日休館

開館時間 午前9時～午後4時30分



館内展示風景

大松美術館

〒501-61 羽島郡岐南町みやまち
4-34-1
TEL (0582) 76-6111

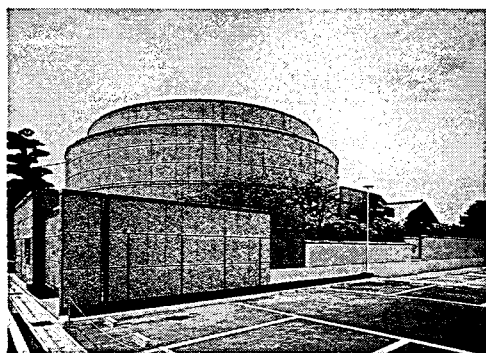
リスマーク製品として有名な岐阜プラスチック工業株式会社の創業者である、故大松幸栄氏が収集した近代日本の美術品と茶道具を中心に展示しているのが、羽島郡岐南町に平成3年6月に開館したばかりの大松美術館です。

故大松幸栄は近代日本画をはじめ茶道具などに関心が高く、多忙極まる業務のかたわらこれらのコレクションを鑑賞することを無上の喜びとし、安らぎとしてきました。そして同時に収集した美術品を広く一般に公開し、少しでも多くの方々とその喜びを共有したいと願っていました。

その故人の遺志にしたがって、未亡人大松節子氏を初代館長として現社長の発案により美術館を設立し、社会に貢献できる美術館活動を目指しているそうです。故人の遺徳を偲ぶという気持ちからあえて社名は使われていませんが、美術館の建設は同社の士気向上にも大きく役立っているそうです。

主な美術品には、故人が好んだ横山大観、川合玉堂、前田青邨、上村松園、速水御舟、奥村土牛、岩橋英遠らを中心に系統立てて集められた近代日本画をはじめ、桃山古陶や茶道具などおよそ千点が収蔵されています。

建物は花こう岩の外壁が美しい半円形のモダ



大松美術館 全景



横山大観〈春の霊峰〉昭和28年



川合玉堂〈鵜飼〉昭和13年

んな地上2階建てで、地下1階には講演などにも使えるアートホールがあります。また、同じ敷地内に建てられた土間造りの茶室も同館の大きな特徴で、裏千家の顧問でもある大松館長は「靴履のままで気軽にお茶を楽しみ、くつろいだ気持ちで先人たちの作品に触れてもらえば…」とその思いを語ります。なお、当館に隣接して、耕雲庵、松翠庵の茶席が併設されています。

まだ、開館もない美術館ですが、来館者は口コミで県下はもとより愛知、三重方面にまで広がりを見せているそうです。

なお、大松館長は「これからも少しずつ収集を続け、3年、10年先を目標に所蔵品の奥行きを深めていき、社会的にも貢献できるように美術館にしていきたい」と語っています。

休館日：月曜日

開館時間：午前10時～午後5時

(入館は4時30分まで)

郡上八幡博覧館

〒501-42 郡上郡八幡町殿町50番地
TEL (05756) 5-3215

「水とおどりの城下町」郡上八幡町の自然・文化・歴史を分かりやすく紹介するための施設として、平成3年7月6日郡上八幡博覧館がオープンしました。

八幡町は、今まで観光施設としての城山にそびえる八幡城が町のシンボルの一つでしたが、本格的な町営博物館の建設で、また一つ郡上八幡町の名物が増えました。

全館を5つの展示室で区切り、入口・出口ホールには入館者に対する暖かい気配りがなされ、館内いたる箇所に郡上八幡らしさが漂う博物館です。

「イメージ展示室」ではスライディングウォールで郡上八幡町はどんな町かを一目で理解できる工夫がなされ、江戸時代の郡上八幡絵図と比較しながら町を紹介しています。「水展示室」では全国的に名高い長良川・吉田川の清流や、水と住民とのかかわり、水の利用、川の風景など「水の町八幡町」を写真でアピールしています。「歴史展示室」では那比新宮で保管されている国の重要文化財「懸仏」のレプリカが紹介され仏教美術の宝庫那比を浮き彫りにしています。また「宗祇水」と「古今伝授」をジオラマで表わし、宝暦の百姓一揆、幕末の凌霜隊についてもイラスト、写真で分かりやすく解説されています。



郡上八幡博覧館 全景

「わざの展示室」では郡上八幡町に連綿と傳承され続けてきた郡上紬、郡上本染、郡上さお、郡上ビクなどが実物資料と共に展示されています。また現代の技である木工、スクリーン印刷も紹介され、自然環境に恵まれた八幡町で活躍する、芸術家（彫刻、絵画、書等）十数名の作品もこのコーナーでは注目する一つです。

「おどりの展示室」では全国に誇る郡上踊りのすべてが理解できるよう様々な工夫が凝らしてあります。

郡上踊りの歴史と由来を解説し、「かわさき」「春駒」「げんげんばらばら」等10数種の踊りをビデオで分かりやすく紹介しています。また、マルチスライドを利用し、入館者に郡上踊りの雰囲気味わってもらふ配慮もなされています。

これらのコーナーの他に郡上八幡の伝説・民話を館員の親切な紙芝居で紹介する工夫も試みられ人気を呼んでいます。

企画展示室も準備され今後定期的にイベントも計画されています。

過去と現代がうまくミックスされ、写真パネルなどふだんに用い、「水とおどりの城下町」郡上八幡町の魅力をじっくり味わうことのできる博物館です。

開館時間 午前9時30分～午後5時
(郡上おどりの期間は延長)

入館料 大人500円 小人300円
(団体20人以上2割引)

休館日 年中無休
(年末年始 12/23～1/2 休館)

駐車場 大型バス6台、小型車60台



館内展示風景

中津川市苗木遠山史料館

〒508-01 中津川市苗木2897番地の2
TEL 0573-66-8181

概要

「中津川市苗木遠山史料館」は、国史跡「苗木城跡」の麓に平成2年11月開館いたしました。

平安時代末期、源氏の武将加藤景廉が遠山荘の地頭に任ぜられ、その子景朝が姓を遠山と改めて遠山荘に赴任し、岩村遠山氏の基礎を築くわけですが、苗木遠山氏はその支流として恵那郡北部に勢力を伸ばしました。特に江戸時代には徳川幕藩体制下一万石の小大名ながら一度の国替えもなく、初代から十二代までを全うして栄えました。

当館はそうした歴史を踏まえて、中世戦国期から明治維新までの、苗木領の歴史的文化財を収蔵・公開し、市民はもとより多くの方々にご利用の知識や理解を深めていただき、歴史研究等に資することを目的として設置いたしました。

館は鉄筋コンクリート造3階建、総面積1326㎡、1階にエントランスホール・受付・事務室・閲覧室・調査室・整理室・収蔵庫・湯沸場・茶室・便所・エレベーター・常設展示室があり、2階には、収蔵庫2・倉庫2・テラス・ホールビデオコーナー・学習室・エレベーター・課題展示室・特別展示室があり、3階は倉庫と機械室になっています。

収蔵品は旧苗木領関係の古文書・武具・衣類・道具・書画など3000点余が主となっています。

展示

常設展示室では「苗木領の歴史」をテーマに中近世の苗木領の歴史と苗木城について展示しております。初代友政の着用した陣羽織、十二代友禄夫人の打掛、九代友清が地元よろいの神社に寄進した備前長船近景の刀、遠山家累代の鎧などかなり見ごたえのあるものもあります。

課題展示室では、「苗木藩の廃仏棄釈」のテーマで明治維新前後の様子と、全国的にもま



れた廃仏棄釈を紹介しております。模型・パネル・キャプションなどを利用して、激しかった廃仏運動を少しでもお分かりいただけるよう工夫しております。

特別展示室では年間4回テーマを定めて、館蔵品及び他所からの借用品を展示しております。

現在までに、①戦国期の武将と中津川②城主の墨跡③苗木家中の武具④縄文時代の道具と苗木城二の丸跡出土遺品の展示を行いました。

講演会、教室

本年度は不定期に次の通り行いました。

講演会 「恵那地域の画人」 講師 可知 収氏
教室 「夏休み親子一日教室・埋蔵文化財」

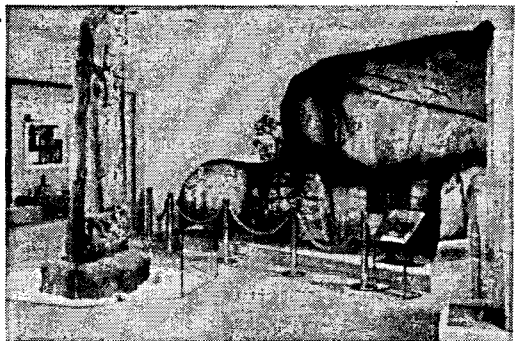
次年度からは計画的に定期的に行う予定です。

開館時間 午前10時～午後15時

休館日 月曜日・国民の休日の翌日、毎月27日、12月27日～1月5日

入館料 大人300円 小人150円
大人20名以上250円、小人20名以上100円

(特別展期間中は別途料金)



課題展示室

恵那地域の画人

とき 平成3年8月5日
ところ 中津川市苗木遠山史料館
講師 可知 収氏

今回は、東濃地区委員の担当で中津川市苗木遠山史料館を会場に、同市教育委員会との共催のもとに実施した。公開講座の準備にあたっては、同市教育委員会をはじめとして関係者の皆様に大変お世話になった。

講演は、恵那地域の画人について、可知先生の豊富なフィールドワークに基づいて、地域別に一人一人取り上げてその作品を鑑賞しながら丁寧に解説されるという方法で進められた。

午後からは会場の遠山史料館展示室、青邨記念館、苗木城跡の現地見学を実施して公開講座を終了した。

◇可知先生の講演要旨

先生は、大きく明治時代以前の画家と明治、大正、昭和の画家に分けて説明された。

1. 明治時代以前の絵画について

恵那地域の岩村、苗木、中津川を中心に一部の武士や資産家が楽しむ絵として描かれ、今日まで作品が残されてきた。

○ 牧牛

人物がよく分からなかったが、作品の中にあった「忠民」を手掛かりにして苗木藩の御典医水野忠民であることが判明した。

○ 三尾暁峯 寛政10年 付知生

最初の職業絵師である。京都の佐伯岸駒^{まんく}を師として絵を学んだ。45年間にわたって日記を残しており、その記録から彼の活動や作品等が明らかになっている。襖絵^{ふすまゑ}等を描いて生活の糧とした。彼の弟子は恵那地域を中心に広がっていたが、その系統は大正時代には衰退し、現在は後継者はいない。

2. 明治時代に現われた恵那地域の水墨画家たち

ち

○ 成木星州 文久3年中津川生 実家は商家 京都で勉強した後、名古屋で活躍する。大正時代の作品に力作が多い。福沢物助、定奴も絵を習ったことがある。

○ 安藤栄作 慶応2年苗木生 南画家 30歳を過ぎてから京都で絵を習う。軸物より唐紙の絵の方に力強いものが多い。妻を失ってから、子供を知人に預け各地を放浪、大正9年中津川に帰る。晩年は行方不明となる。

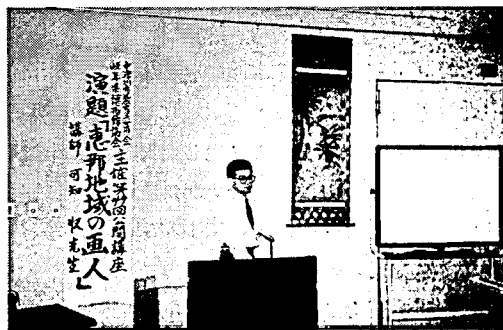
○ 成木蝶哉 成木星州と親戚 富岡鉄斎風の絵を残している。俳句も得意とした。議員となり地方政治に参画した。

○ 西尾楚江 恵那出身 雪景を得意とする画家。北海道まで出かけて研究し、雪のふくらみ、雪のやわらかみを出す工夫をした。岐阜市に明治末から大正時代に在住して活躍、晩年恵那に戻り昭和13年没する。

○ 町野華城 明治5年恵那生

東京で前田青邨の叔父が営んでいた「東濃館」という旅館の娘と結婚、別に本郷で学生相手の下宿屋を営みながら絵を書く。武者絵を得意とするが、青邨の方が有名となってしまった。後年下宿屋を手放し郷里に帰る。

3. 明治、大正、昭和時代と活躍した恵那地域の油絵画家たち



講演中の可知先生

- 牧野伊三郎 明治3年付知生
24歳の若さで死去したため作品は少ないが素晴らしい絵を残している。県美術館に2～3点収蔵されているはず。代表的な作品に上野寛永寺の彰義隊の絵があるが、これは現在付知に保管されている。
 - 森本頼七 明治21年落合生 昭和55年没
大阪で洋画家の松原三五郎に師事、瀬戸市の窯学校に就職し陶磁器を製作、昭和5年の環太平洋博覧会に出品する。晩年は落合で絵画に専念した。
 - 安藤邦衛 明治22年中津川生
明治44年に渡米、更にその足でフランスに行き、パリで勉強する。帰国後は名古屋に安藤洋画自由研究所を設立。中部地方一円から弟子が集まったが、昭和20年の空襲で焼失。その後は絵を描くかわら大学の講師等を勤め、昭和46年に亡くなる。
 - 伊藤敏博 明治31年恵那市竹並生
裕福な酒屋であったことから、作品を売ることはなかった。岸田劉生の門下生。途中から水墨画に転じ、文部大臣賞を取っている。油絵の作品が県美術館に残されている。
 - 原田武男 明治40年山岡町生
昭和4年春陽会で初入選、昭和28年春陽会の会員となる。
 - 後藤幸造 山岡町生
明治38年岐阜師範学校卒業後、東京美術学校へ入学、在学中に帝展に入選する。その絵が山岡の小学校に残されている。画家としては知られていない。
4. 昭和時代に活躍した恵那地域の画人たち
- 中川 巴 明治23年中津川生
図画の教師、日本画から出発する。後に油絵を始める。農村歌舞伎を題材として、ポスターカラーを使用した自由奔放な絵が有名となる。昭和57年92歳で亡くなる。
 - 吉村唯七 明治39年中津川生
油絵を得意とする。山岳画家で恵那山を中心に数多くの山を描いた。
 - 安田蓼江 明治30年生 西尾楚江の弟子
花鳥画を得意とする。

- 田口楚水 明治31年生 西尾楚江の弟子
山水画を得意とする。
- 森 梅逕 明治36年名古屋生
銀行関係に勤務、転勤で京都に移り本格的に南画を習う。帝国美術院に属していたが帝展入選後は別れて日本南画院を主催し、昭和59年亡くなるまで活躍する。名古屋から中津川へ移り、中津川を中心に弟子があった。

恵那地域には70名近くの画人が活躍していたが、今回は恵那、中津川市を中心にその内の一部の画人について紹介した。前田青邨らの美術史に残る画家たちの周辺には、伝統的な文化を背景として多数の画家がいたこと、また、この地方がそうした文化を育みやすい土壌であったこと、が理解いただければ幸いです。と話されて講演を終られた。



苗木遠山史料館の見学

〈今後の公開講座の予定〉

本年度第3回以降の公開講座を次のように予定しています。ぜひ、多数ご参加ください。

- ☆ 第50回公開講座 平成3年10月13日
会場 岐阜県博物館
講演 海を渡る蝶―渡瀬線と生き物たち
見学 岐阜県博物館記念展
「鹿兒島―その自然と歴史―」
- ☆ 第51回公開講座 平成4年1月28日
会場 岐阜県美術館
講演とガラス展及びハイビジョンの見学

(事務局 安藤和男)

新入館・園紹介

○ 郡上八幡博覧館（公立）

〒501-42 郡上郡八幡町殿町50番地

TEL 05756-5-3215

館長 成瀬 学

設置年月日 平成3年7月6日

いています。また、各県の実践発表では以下の方々に発表を予定していただいています。

愛知県

尾西市歴史民俗資料館 小林弘昌さん

三重県

県立斎宮歴史博物館 伊藤久嗣さん

岐阜県

岐阜県陶磁資料館 加藤よね子さん

◎ 会員研修会ご案内

第20回会員研修会を9月19、20日に石徹白と長滝の奥美濃を中心として開催する予定でしたが、昨年に続き台風18号による大雨警報発令のため中止となりました。せっかく参加を予定してくださった会員の皆様や、講師としてお願いしていました齋藤美術館館長の齋藤仁司様には大変申し訳ございませんでした。

今回は11月20日に岐阜県博物館において開催します。テーマは「手づくり展示・写真パネル等」です。開催中の「鹿児島」展をモデルにしながら、企画展示や常設展示における身近な展示の基本やレイアウト・レタリング等について研修したいと思います。多くの会員が集まっていたことを期待します。

◎ 第16回東海三県博物館協会 交流研修会近づく

三年毎に各県を巡回する東海三県博物館協会交流研修会がいよいよ近づいてきました。本年は岐阜県が当番県で、10月17日(木)と18日(金)の両日恵那市のグリーンピア恵那を中心会場として開催されます。9月末現在愛知県32名、三重県18名、岐阜県29名の参加申し込みをいただいています。この研修会は毎回各館園の交流が積極的になされ、夜の懇親会やその後の各県交流会などにぎやかに行われます。開催県の会員の皆様の多くの参加をお願いします。

今回の研修会では、博石館の岩本哲臣館長に「博石館の経営について」と題して講演をお願い

◎ 御母衣電力館オープン

御母衣ダム展示館がこの度増改築をし、御母衣電力館と館名変更をしオープンしました。売店、食堂等も併設され大変人気を呼んでいます。

展示内容も次のような資料が加えられ、より一層充実されました。

- (1) 荘川桜にまつわる物語をビデオで紹介。
- (2) 桜のコーナーを設置し、日本の桜の種類などを図パネルで紹介。
- (3) 御母衣ダム周辺の四季をビデオプロジェクター2機を利用し、円形シアター(60名程収容可)で紹介。
- (4) 花と鳥のプロムナードコーナーを設置し、野鳥、山野草等を写真パネルで紹介。

開館時間は午前9時～16時まで、年中無休、入館料は無料です。8月8日の新装オープン以来9月末日現在で2万人の入館者を記録されたとのこと。

編集後記

県内各地で資料館・美術館等のオープンが連続して伝えられました。新聞に掲載されるつど事務局から博物館協会加盟のお誘いをしております。9月末で協会加盟館・園が114になりました。近くに未加盟の館がありましたらご紹介ください。

東海三県交流研修会が近づきました。自然環境抜群のグリーンピア恵那で互いの館の実情を交流し合ひましょう。多数の参加を。